

経営比較分析表（令和6年度決算）

岡山県真庭市 真庭市国民健康保険湯原温泉病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	18	-	ド訓	教臨へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
40,778	9,830	第1種該当	第1種該当	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

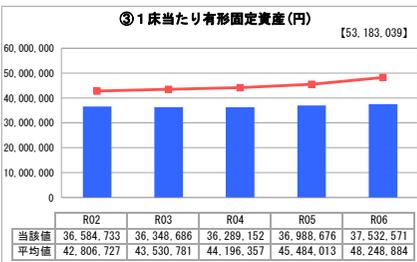
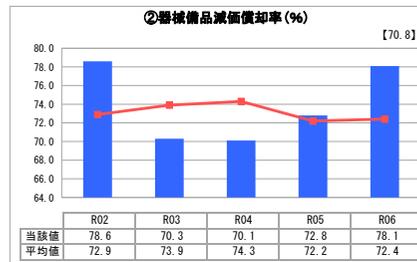
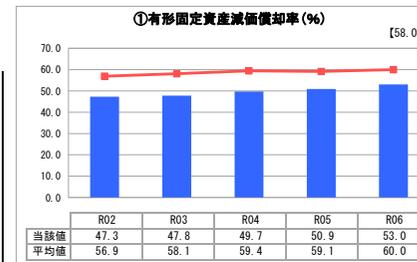
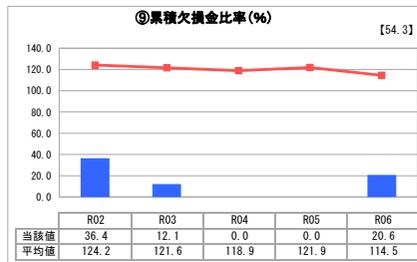
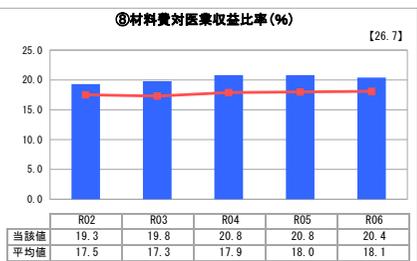
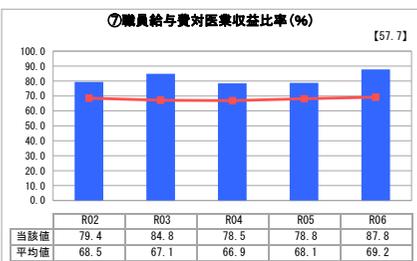
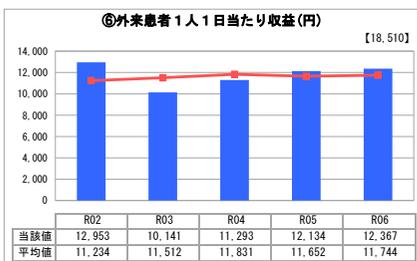
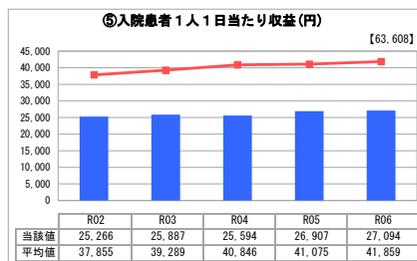
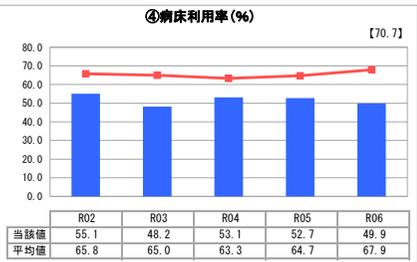
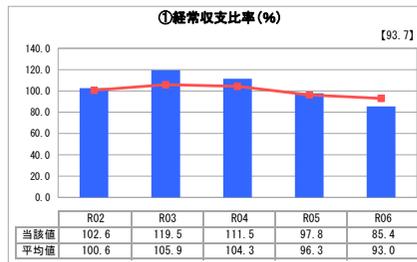
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	55	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	105
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
39	30	69

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の病院・ネットワークを基に)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

本院は地域医療構想において、へき地医療拠点病院に位置づけられており、市北部唯一の病院として二次救急医療を提供している。患者層の多くは高齢者であり、在宅を意識した診療体制として、訪問看護や通所・訪問リハビリテーションを提供するなど、地域包括ケアシステム構築の一翼を担っている。また、公立病院として、県北の基幹病院との相互連携や機能分担を推進する役割も求められている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度は常勤医師の減、人件費の上昇及び材料価格の高騰等の影響で大きなマイナス収支となった。これらのマイナス要因により「①経常収支比率」、「②医療収支比率」、「③修正医療収支比率」は前年度を大きく下回った。「④病床利用率」も医師のマンパワー不足で、昨年度を下回る結果となった。「⑤入院患者1人1日当たり収益」、「⑥外来患者1人1日当たり収益」は昨年度を若干上回ったが、手術件数及び重症患者が少ないため、⑤は類似団体平均を下回った。「⑧材料費対医療収益比率」は、類似団体平均を上回っている。薬品については次年度から院外薬局となるため収支状況を分析する必要がある。

2. 老朽化の状況について

新築移転から20年経過し、確実に老朽化が進んでいる。突発的な修繕が度重なっているため、全体的な点検を行い計画的に改修等を行う。医療機器については使用頻度等を考慮し更新している。計画的な固定資産の取得、除却を行う必要がある。

全体総括

過疎地域の急速な人口減少や医師・看護師等の不足、物価高騰により公立病院の経営環境は極めて厳しい状況にある。へき地の公立病院が地域の医療を守り、存続していくためには、地域医療構想を踏まえ、各医療機関が担うべき役割・機能を改めて見直し、明確化・最適化した上で、病院間の連携を強化する「機能分化・連携強化」を進めていくことが必要となる。独立採算の原則を堅持しつつ、新興感染症への対応、へき地地域の救急医療の確保や医療水準の維持を図り、地域に必要な医療提供体制を確保する。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。